



資料5

イオンの鉄道輸送への取り組み

2015年5月29日

イオングローバル S C M 株式会社

物流センターにおけるCO₂排出量削減取組



	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013 ~ 2020
① 温暖化 防止 宣言							
	削減実績 0.3万トン	削減実績 1.7万トン	削減実績 10万トン	削減実績 18万トン	削減実績 22万トン	削減実績 27万トン	
	② サステ ナブル 経営 物流センターから店舗までの配送における1ケース当たりCO ₂ 排出量						

環境負荷ミニマムの骨子



海外

国内

◇ 海外物流構築

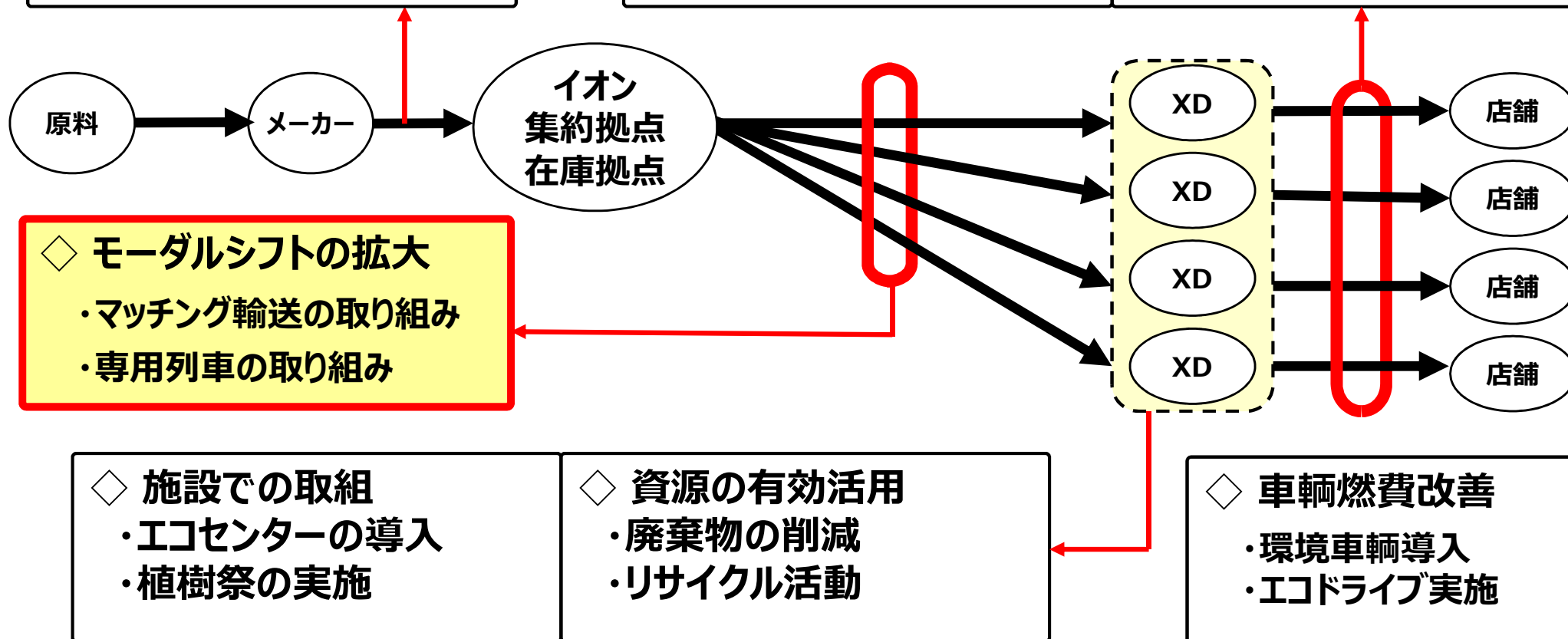
- ・海外からの直接物流拡大
- ・多港入国内幹線輸送縮小

◇ 走行距離短縮

- ・グループ各社との物流協働化
- ・物流インフラの構築

◇ 車両積載向上

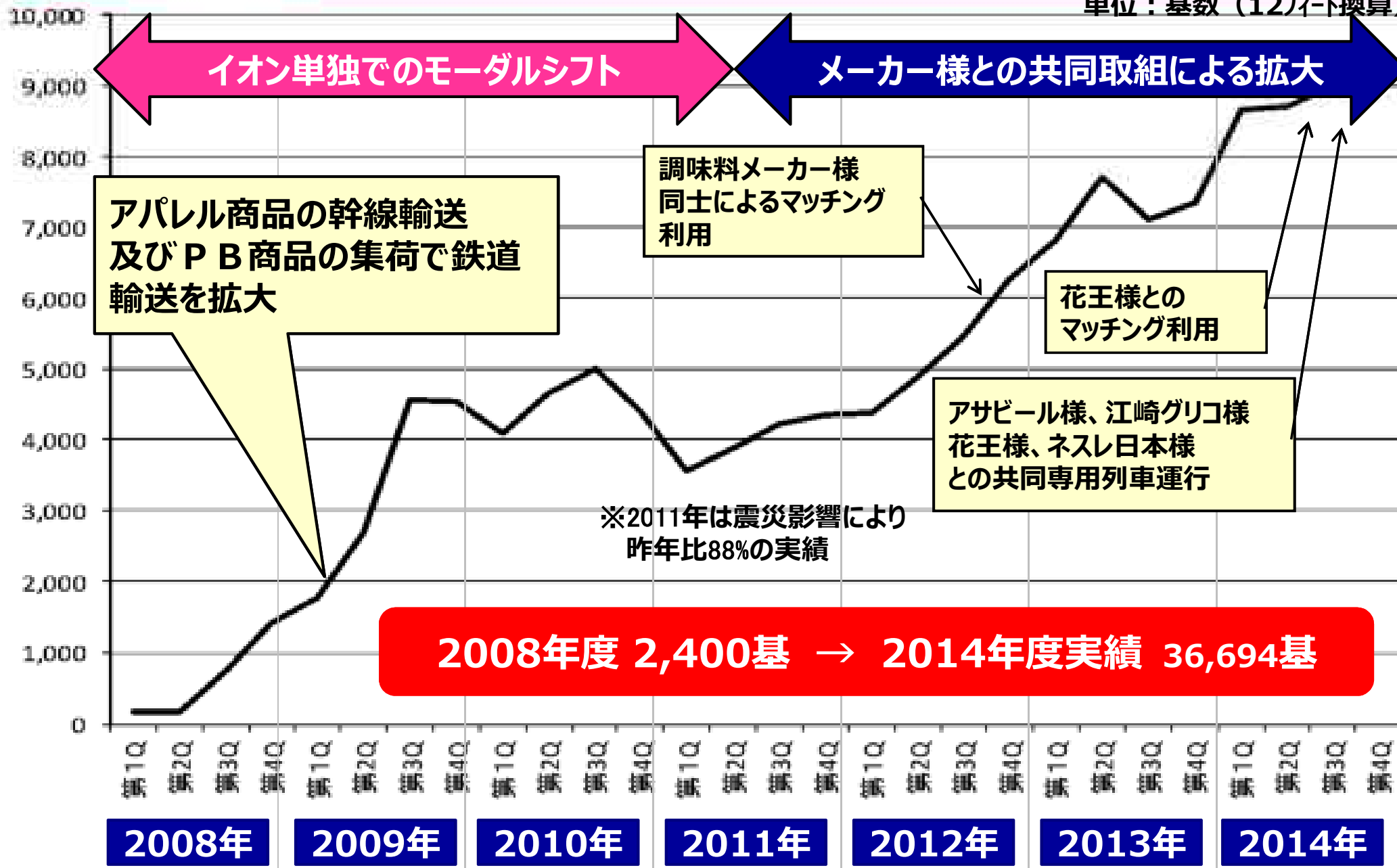
- ・低温施設、常温施設
単機能→複合センター化へ



モーダルシフトの実績推移（2008年～2014年）



単位：基数（12フィート換算）



イオン鉄道輸送研究会



2008年度よりJR貨物様⇔イオン モーダルシフトPT発足
2009・2010年度はモーダルシフト順次拡大



2010年 イオン鉄道輸送研究会の発足
(2015年5月現在の参加企業31社 メーカー21社・物流事業者10社)



交通新聞 JR貨物特集(イオン記事)



コストとCO₂削減に向けた鉄道利用の拡大

センター・工場への
納品に鉄道を利用

- ① イオンセンターへの鉄道納品拡大
- ② 原料の工場への輸送に鉄道を利用

各社の幹線輸送の
鉄道利用

- ① 往復運行によるマッチング
- ② 関東-関西間（近距離）の鉄道輸送

駅への持込車輛の
共同化

- ① 緊諦車の往復利用
- ② 緊諦車のミルクラン集荷

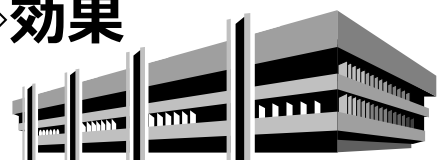
2014年度イオン鉄道輸送研究会



◇スケジュール

		2014年度												2015年度								
		3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月					
鉄道輸送研究会	日程	●				●		☆	●		☆							●				
	テーマ(案)	協働化による31F往復運行提案			鉄道貨物の基礎知識の勉強会			専用列車の共同運行提案 往復結果報告			年末専用列車の運行			2015年度テーマ協議 GW専用列車提案								
	場所	花王川崎工場			JR隅田川TA			ネスレ工場			アサヒビール工場											

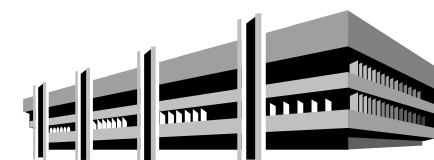
◇効果



イオンNXD

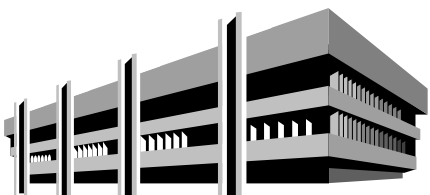


トラック輸送



イオンXD

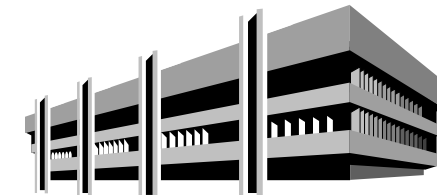
トラック輸送比 **CO₂ 83%削減可能**



イオンNXD



鉄道輸送



イオンXD

【事例①】 物量増大期の専用列車運行の取り組み



日曜臨時枠を活用した 専用列車の運行

2013年8月以降、繁忙期に継続運行

▼目的：

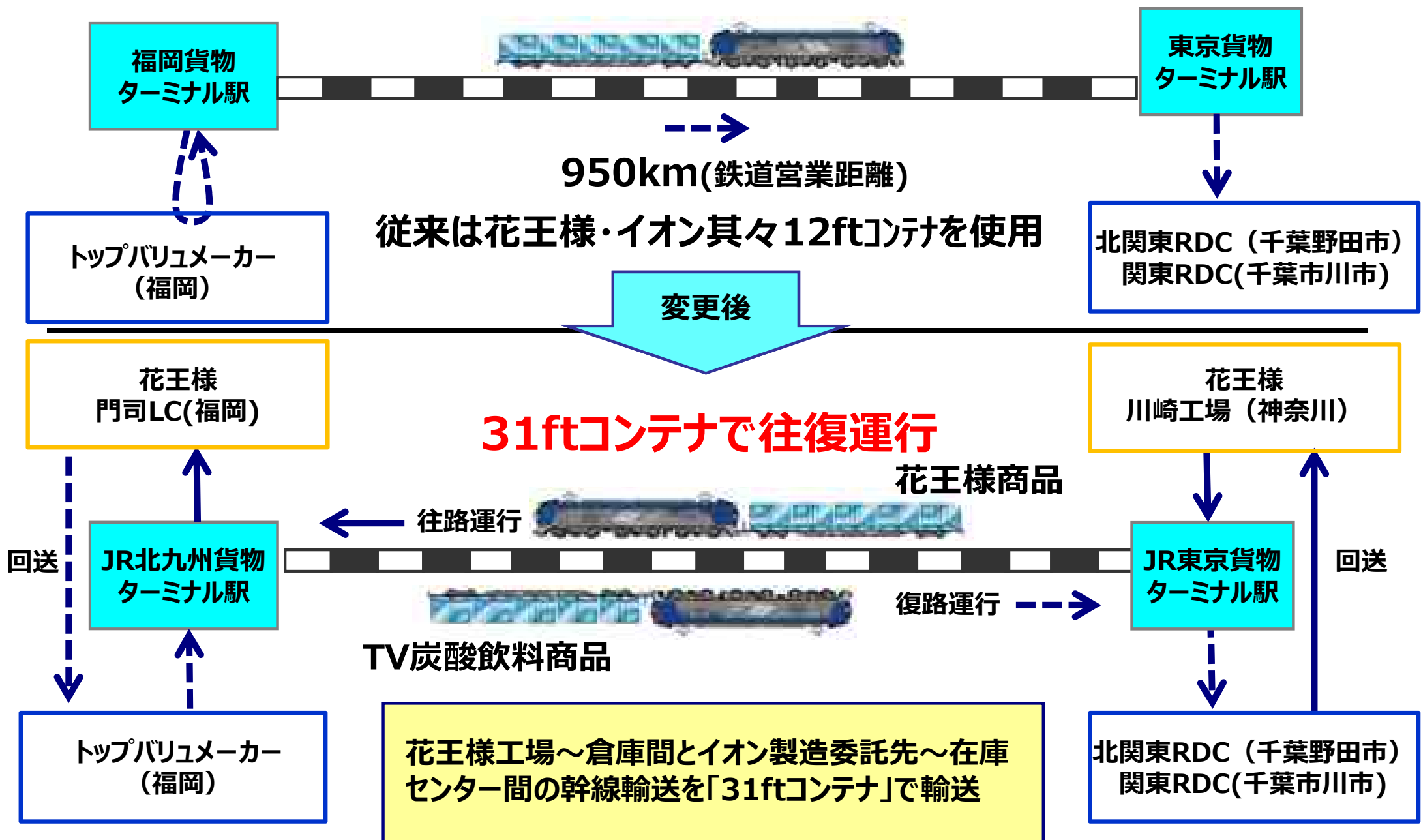
- ① 鉄道活用の拡大
- ② 日曜臨時便を使用した鉄道枠の拡大
- ③ 繁忙期の物流平準化

▼内容：

- ・ 臨時専用列車（イオン号）を運行し、大量一括輸送を実施
- ・ 区間：北長野発⇒隅田川ターミナル
- ・ 物量：8両コンテナ40基分
- ・ 商品：トップバリュ商品



【事例②】 31ftコンテナ往復運用



花王様との31ft鉄道コンテナ共同利用



- ▼花王川崎工場（川崎貨物ターミナル）
花王商品の積込

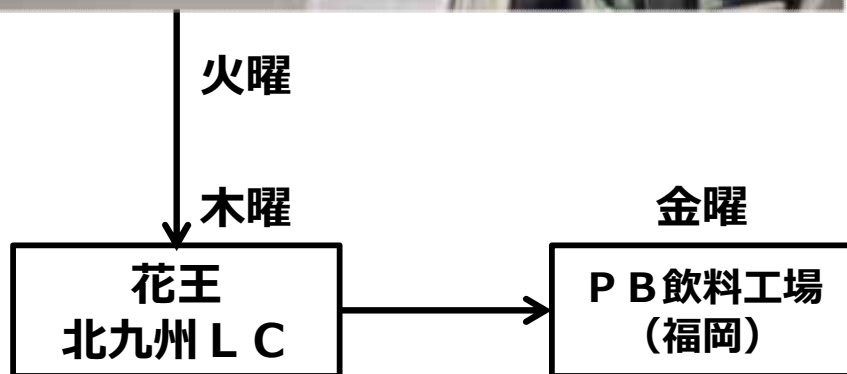


火曜

- ▼イオン関東RDC
P B商品の荷降し

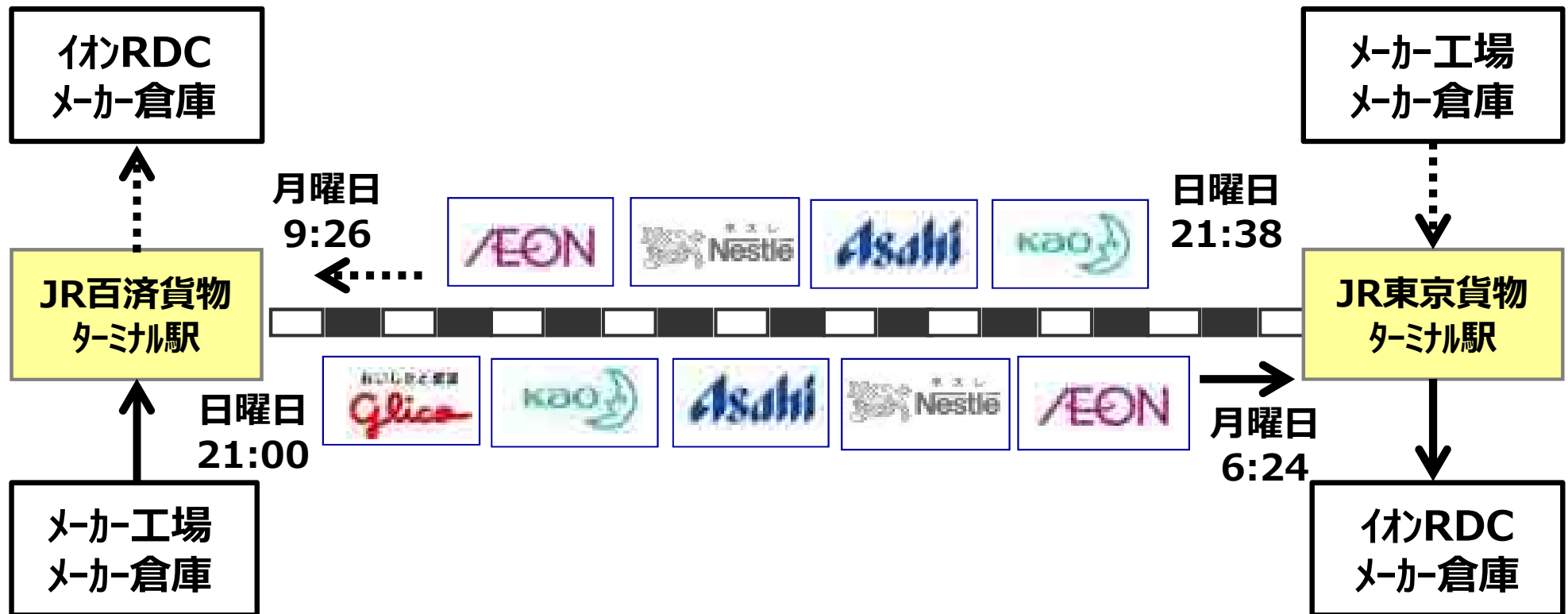


火曜



1週間に1回のラウンド運用を継続

【事例③】 2014年年末臨時列車運行（東京-大阪間）



単位：コンテナ数

運行日	ルート	ブランド					計
		イオン	ネスレ日本	アサヒビール	花王	グリコ	
12月14日(日)	東京→百済	29	11	40	10	-	90
	百済→東京	75	20	5	10	4	114
12月21日(日)	東京→百済	14	-	30	10	-	54
	百済→東京	65	-	2	12	6	85

※12月21日の運行は、日本海・上越降雪による中継列車運休等の影響により積載基数減となった

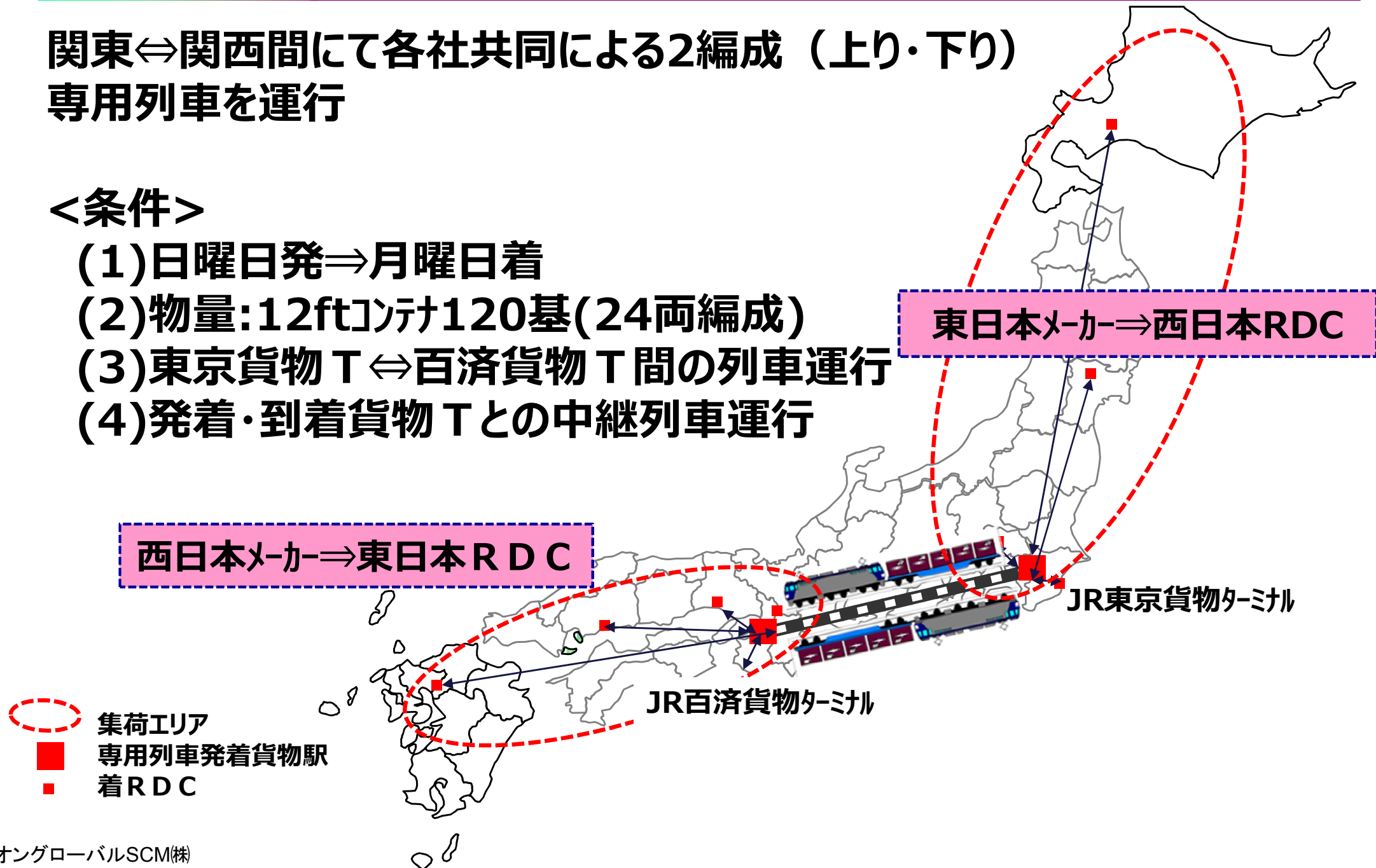
専用列車の概要（イオンでの集荷・配送計画）



関東⇔関西間にて各社共同による2編成（上り・下り）
専用列車を運行

<条件>

- (1)日曜日発⇒月曜日着
- (2)物量:12ftコンテナ120基(24両編成)
- (3)東京貨物T⇔百済貨物T間の列車運行
- (4)発着・到着貨物Tとの中継列車運行



異業種での共同専用列車運行のアピール



◆ニューリリース抜粋（12月5日）

東武・大宮線、イオン・スズキ日本・アサヒビール・花王・住友グループで専用列車を運行！
12月14日・21日「イオン鉄道輸送研究会」専用列車運行
 効率を高め、共同でCO2排出量削減を目指します

日本貨物鉄道株式会社（以下、JRF貨物）とイオンの物流を担うイオングローバルSCM株式会社（以下、イオングローバルSCM）が列車を共同で「イオン鉄道輸送研究会」と、関係企業への取組みとともに従来の運送を補完し対応するため、共同で東武・大宮線に専用列車を運行します。

イオングローバルSCMが、共同発着に参加する各物流メーカーの企業に呼びかけ、株式会社住友物産、アサヒビール株式会社、花王株式会社、住友グループ株式会社がこの機会に、参加しました。

発着が定例となる12月14日（日）と21日（日）に、東京（中）駅発着（往）新行幸（東武大宮線）と東京（中）駅発着（往）新行幸（東武大宮線）を専用列車として運行いたします。併せて、「イオン鉄道輸送研究会」を通じて効率を高めるカーゴコンテナを積極的に活用し、物流効率の向上のニーズに応じた新たな列車運行を実施しています。

注（中）は量販カーゴ専用線



祝 イオン鉄道輸送研究会専用列車運転記念式典



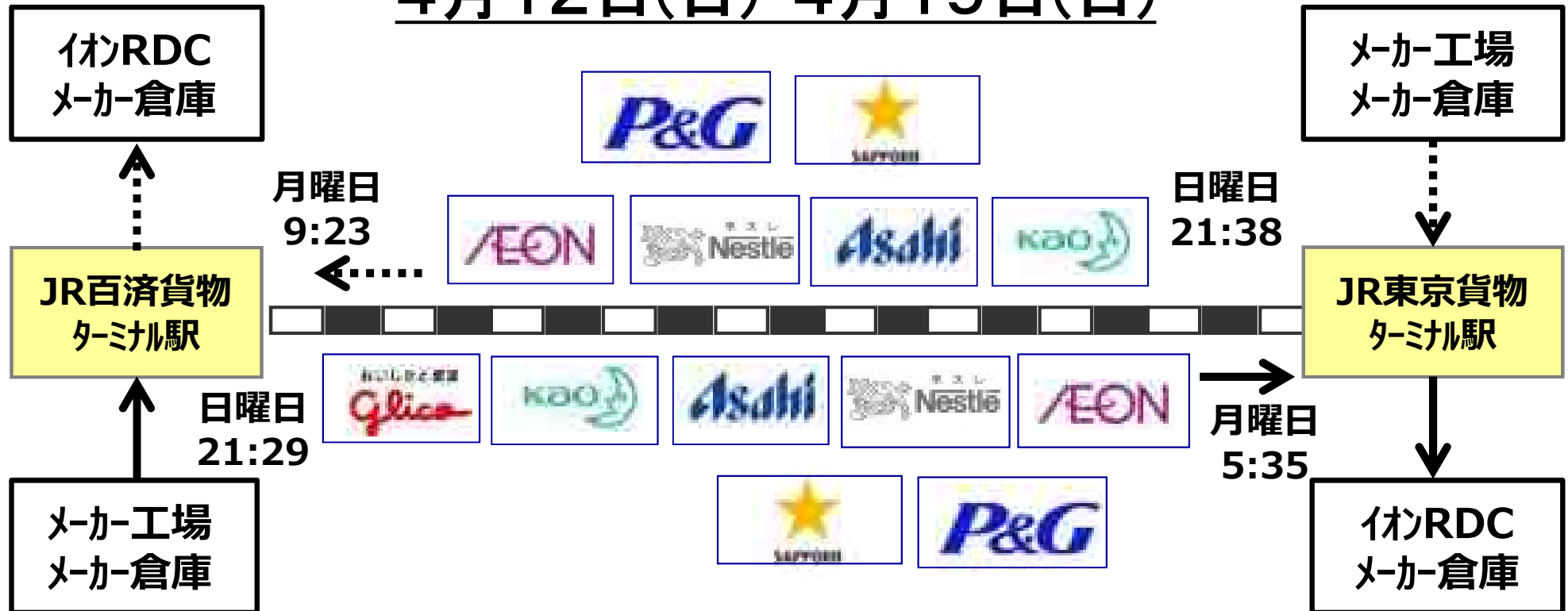
専用列車運行のメリット

- 1、CO2排出量削減⇒環境へのアピール
- 2、トラック輸送環境の変化
⇒長距離間輸送の安定化
- 3、BCP対策⇒複数輸送手段の確保

共同専用列車運行（2015年ゴールデンウィーク期間）



4月12日(日)・4月19日(日)



2014年年末に共同実施した4社様に加え、サッポロビール様、P&G様の2社にもご賛同いただき運行いたしました。